

天竜の木を用いて 街に、木の建築を!

【開催日】4月14日(火)・15日(水)
【開催地】浜松市 【参加費】36,000円(税込/人)

春のセミナーのご案内

【主催】遠州・地域材研究会
【後援】浜松市・浜松商工会議所(14日バスツアー)
【協賛】一般社団法人 町の工務店ネット
手の物語 有限会社

新型コロナウイルスの行方が不透明です。状況により中止・延期せざるを得ない場合は、あしからずご了承ください。



天竜の柚びと Photo:上田明

この写真は、浜松在住のカメラマン上田明さんが、天竜の山に取材に入り、偶然、下草刈りをされていた老人に出会ってシャッターを切られた写真です。20年も前のことです。この写真を見た私は「天竜の柚びと」とタイトルをつけ、当時、全国

各地で取り組まれていた「近くの山の木で家をつくる運動」のニュースなどに掲載しました。柚ヒノキとは、山に木を植え、育て、それを生業にする人をあらわす言葉です。この一枚の写真に、「老いてなお我、柚夫なり」といった気概を感じます。私はそこに天竜の山が

持つ生命の証を見たのでした。天竜の山は、人々によって営々として引き継がれ、育てられてきた万代不易の山です。そのことに畏敬の念を持ち、天竜の山の木を用いて、永く生き続ける木の建築を生み出さなければ、と思うのです。(記/小池一三)

「暴れ天竜」との苦闘の歴史を経て、遠州平野は形成された。 地産地消の「木の建築」によって、浜松の〈まち〉の顔を生み出そう。

古代、天竜川は度重なる洪水により、三方原台地と磐田原台地の間に、幾筋もの河道をもたらしました。天竜川に土手を築いて治水を試みられたものの、大雨の度に小天竜の河道に水が乱入し、洪水被害が発生しました。

ここに、山に木を植えて“暴れ天竜”を治めようとした2人の先達があります。藤原茂辰と金原明善です。藤原茂辰は、水窪にある山住神社の23代宮司です。彼は当時の幕府御用材の乱伐を憂い、荒れた山に植林することを決意し元禄9年(1696年)、紀州熊野神社参内の折、苗木3万本を買求め、以降亡くなる延享元年(1744年)までの48年間に36万本の造林を行いました。

金原明善翁は治山治水の人としてつとに知られますが、翁がモデルにしたのは藤原茂辰でした。明善19歳の時に遭遇した洪水は、明善の生地である安間村を沈めました。明善は「治水の基は水源涵養林にあり」と考え、官有林にスギ249万本、ヒノキ49万本を植えました。天竜材はこうした先達に導かれ、戦後造林を経て、関係者の必死の努力により、今の美林を形成するに至りました。しかし現実には、手入れが行き届かず、今のままでは山の荒廃が必至です。

森のめぐみを利用しながら、新しい苗を植え、健康な森を育てる循環を生むことが大切です。山から出てきた木を、遠くに運ばないで地域で用いれば、その分、環境負荷が軽減されます。建物に用いられた木は二酸化炭素が固着化され、地域環境に貢献します。大切なことは、木の植樹・育成・伐採・利用の地域循環を生み、持続可能な森林環境を、市民みんなで守り発展させることです。



天竜川下流域の旧河道(「天竜川・菊川の流れと歴史のあゆみ」より) 国土交通省中部地方整備局河川部河川計画課

お申込みはWebサイトから

町の工務店ネット

<https://machi-no-komuten.net/archives/27052>

お申込みWebサイトのQRコードはコチラ➡



FAX用 参加申込み書

2020年 月 日

御社名			
住所	〒		
TEL		FAX	
(ふりがな) 参加代表者名	男・女	参加代表者役職 ()	
(ふりがな) 参加者名	男・女	(ふりがな) 参加者名	男・女
参加代表者メールアドレス		参加代表者携帯電話番号(当日ご連絡先)	

FAXでのお申し込みは

053-570-9007

お申込書FAX到着後、折り返しメールにて、ご案内等ご送付させていただきます。

【お問い合わせ】町の工務店ネット 静岡県浜松市中区南浅田2丁目2-1 tel:053-570-9001

天竜の木を用いて 街に、 木の建築を!

建物見学バスツアープログラム

天竜材を用いて、地元の設計者・工務店によってつくられた建物を見て回るバスツアーを計画しました。期日は4月14日(火)12:45集合です。予約のお申し込みは裏面に。

出発13:00

[JR浜松駅・遠鉄バンビツアー乗り場]

街の中の醤油工房

[加藤醤油]

設計・施工:(有)番匠



街の中の保育園
[なかよし第2こども園]

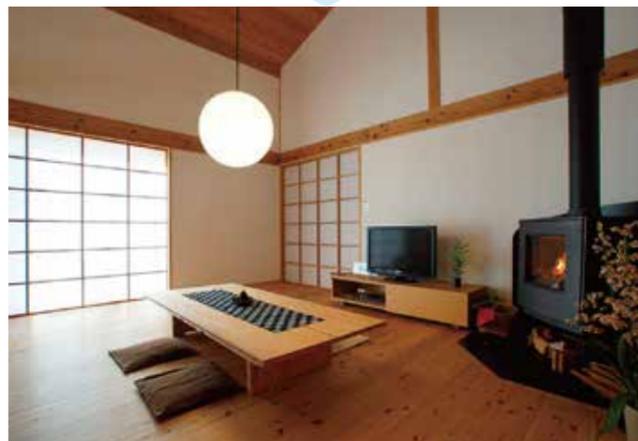
設計:村松 篤



浜北の住宅

[平口ゲストハウス]

設計・施工:スローハンド(有)



袋井の礼拝堂

[からし種礼拝堂]

設計・施工:(有)入政建築



木の建築の事務所
[掛川市森林組合新事務所]

設計:村松 篤



18:00

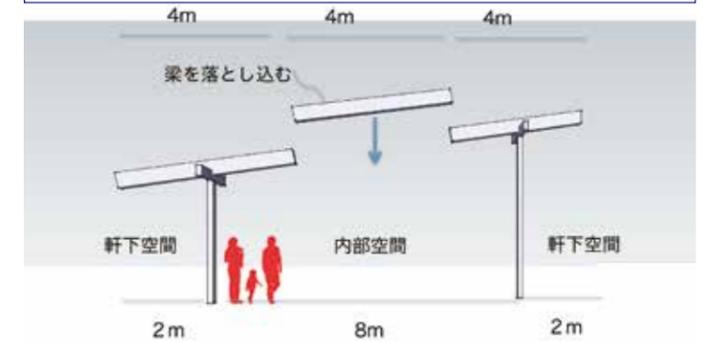
浜松駅解散



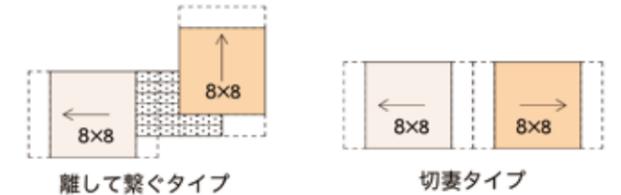
非住宅・中規模木造プロジェクト 開発計画の概要

- ①4m材を組み合わせて8m程度の何でも使える木造の箱をつくる。
- ②用途に応じて、その箱を繋いだり並べたりすることで、小さな空間から大きな空間をつくりだすシステムを構築すること。

天秤梁の中間に梁を落とし込んで登り梁を合成する



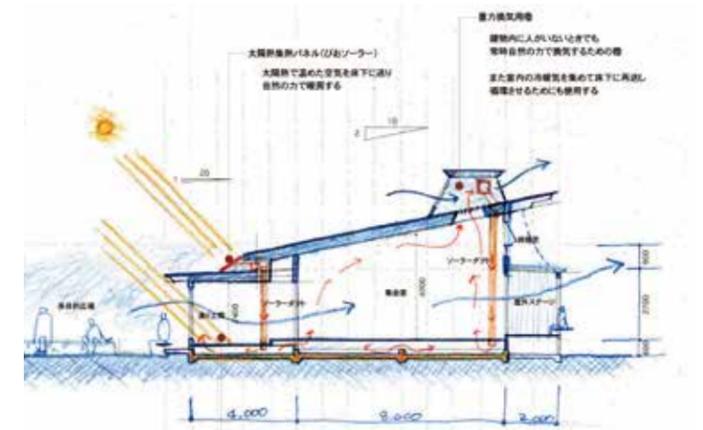
プランの展開



連続型スケルトン



自立型スケルトン



春のセミナーの皮切りは、 浜松での泊りがけセミナー。

4月14日(火)12:45集合・15日(水)16:00解散

今年は、何とも鬱陶しい春ですが、重い空気を吹きはらい、清々とした未来を呼び込むため、泊りがけセミナーを開催します。初日は「遠州・地域材研究会」主催による「建物見学バスツアー」に参加し、セミナーは、その夜の交流会からスタート。翌15日夕方まで、充実のセミナーを準備しています。

遠州・地域材研究会の取り組みについて

4月から開始される森林環境税事業に、地元対応するべく誕生した「遠州・地域材研究会」主催による建物見学ツアーに参加します[後援／浜松市・浜松商工会議所(14日バスツアー)]。同研究会は、天竜材を用いた木造非住宅の建築をいかに進めるか、そのための民生活プロジェクトです。山側と街場の工務店・設計者が共同連携・協同(協働)し、主として、天竜のムク材を用いた建築研究と、技術交流を計る取り組みを開始しますが、林産地の浜松とはいえ、街なかの建築はS造・RC造が大半を占めており、この壁を超えるべく「浜松の街に、木の建築を」キャンペーンにも取り組みます。S造とのコストの壁、木の建築の設計者不在の状態は各地共通の難題ですが、森林環境税事業は林道整備だけでなく、「出口戦略」の構築が急務の課題でもあり、その道筋をつける取り組みにしたいと考えています。セミナーでは、キャンペーンのプロモーション展開法を発表すると共に、地元メンバーによる地域型取り組みと、工務店の内部化を計るための「中規模木造プロジェクトチーム」(メンバー／趙海光・半田雅俊・村田直子・久保潤一・山辺豊彦)による研究成果をお披露目します。

建物見学のあと、交流会を開きます

交流会では、この日見学した建物について、工務店・設計者を交えて感想を述べ合い、技術交流を計ってください。また翌日のセミナーの講師に立たない、遠州・地域材研究会のメンバーの自己紹介と、この取り組みに寄せる期待を語っていただきます。同じく地域連携に取り組んでいる大分県メンバーによる取り組み紹介もお願いしています。



セミナー講師陣



ちよう うみひこ
趙海光
(建築家・ぶらんにじゅういち 代表)
法政大学建築学科卒業。国産材を用いた台形集成材の設計や、木造スタンダード住宅の設計手法となる「現代町家」に取り組む。後者は町工ネット工務店の「定番設計」の一つになっており、各地の工務店によって設計の内部化が計られている。「現代町家」という方法(建築資料研究社)が発行され、建築と植栽による、里山のある町角づくりに注目が寄せられている。

中規模木造の取り組みは、S造に対抗できる架構のおもしろさと、コスバに掛かっている。プロジェクトの検討過程と、見えてきた架構法・コスト見直しをお伝えしたい。



眞瀬悦邦
(南番匠 代表)
創業は江戸末期。歴史ある遠州大工の心と技を継承する工務店、番匠の七代目。地産の天竜材の利用を活性化させるとともに、伝統の技を継承するだけでなく、耐震技術・省エネ・パッシブシステムなど、新しい技術を積極的に取り入れ、現代にふさわしい木造住宅を追求。森につながる家づくりをめざす「森と住まいの会」のメンバーとしても活躍している。遠州・地域材研究会会長。

天然乾燥の天竜材に惚れ込んでやってきた。E(ヤング)とD(含水率)が問題視される中規模木造をどうこなすか。新しいチャレンジが始まります。



松原美樹
(手の物語有常務取締役)
中部大学建築学科を卒業後、設計事務所を経てOMソーラー協会に入社。技術推進プロジェクトを担当、アメリカ事務所に配属。北米・南米で集熱ユニットの開発に従事し、同協会退社後、奥村昭雄考案のパッシブシステムの原理を活かした、簡単にシンプルな方法を模索。手の物語役員としてびおソーラーの開発を担う。青いトラックに集熱ユニットを載せて全国を駆け回っている。

木造非住宅の取り組みは、耐震の取り組みと共に、もう一つのテーマとして、省エネ・室内気候が浮上します。サンベルト地域にふさわしい方法を提案します。



村松 篤
(建築家・南村松篤設計事務所 代表)
1959年静岡県生まれ。工務店・住宅ネットワークの設計部長を経て1996年に村松篤設計事務所設立。これまで全国で延べ570棟を超える設計実績を持つ。心地良い空間で永く愛着が持てる建築を基本に据え、パッシブソーラーの設計を数多く手掛ける。日本建築家協会(JIA)の静岡県支部会長を歴任。静岡県住まいの文化賞最優秀賞、静岡県建設業協会優良賞、日本建築学会東海賞ほか、建築賞を多数受賞。

今回、見学ツアーでこども園と木の事務所をご案内します。今後、工務店施工でやれる木の建築を、街なかのレストランとか、いろいろな建物で実現したい。



新野達治
(南入政建築 代表)
1959年3月8日生まれ 県立浜松工業高校卒業。地元住宅会社勤務の後、家業の入政建築に入社。社名は先代の「政治さん」に仕事が入る「入る」ように、との思いから名づけられた。主に住宅、店舗を設計施工して現在に至る。大正から昭和への転換期から三代、木とこころを合わせ、自然素材を用いた家づくりに邁進してきた。小さな工務店だからこそやれる、本物の材料を使った丁寧な仕事を心がける。

浜松特有の「やままいか精神」を発揮して、この取り組みに臨みます。いいものを生まないと根づきませんので、一つ一つの仕事を丁寧に進めたいと思っています。



小池一三
(一般社団法人 町の工務店ネット 代表)
パッシブソーラーの普及に寄与。「近頃の山の木で家をつくる運動」の宣言起草者として知られる。これらの功績により「愛・地球博」にて「地球を愛する世界の100人」に選ばれる。今回は、地元工務店・設計者・製材工場と共に「天竜材を用いて、浜松の街に木の建築を」キャンペーンの事務局長を務め奔走中。若い頃、天竜の山々歩いた経験を活かし、天竜の山・川・街の関係を解く作業に余念ない。

私個人にとってこの取り組みは、街の側から後背の山と一緒に道を開く、「近頃の山の木で家をつくる運動」で果たせなかったことにチャレンジする取り組みでもあります。



坂田卓也
(一級建築士事務所アトリエ 代表)
筑波大学芸術専門学群建築デザインコースを卒業し、増沢洵建築設計事務所に入社。息子の幼稚園への入園に合わせて帰郷。はじめての仕事は自宅の計画。以降、増沢事務所の同僚だった妻、事務所のスタッフ達と仕事に取り組む。日々の生活を重ねる住まいは、よそ行きの「着飾った服」でなく、「着心地の良い服」のようなもの。暮らしの一部として建築設計を考える。

3.11で被災され、木を用いた事務所を福岡に建てられた「Kotori works」の建物を見てきました。その感想を述べ、地域型木造の取り組みについてお伝えしたい。



森田勝明
(スローハンド南 代表)
地域工務店で営業職として、空気集熱式ソーラーの家に数多く携わる。2003年に、前代表杉本直計とともにスローハンド設立。建築というやっかいな仕事を、音楽を奏するように愉しむ姿勢に、ユーザーの共感・共鳴を得ている。スローハンドという名の通り、時間をかけて出合い、時間をかけて住まう家づくりにことこのめり込むメンバーで構成される「木の家専門工務店」、今回は木造非住宅にチャレンジ。

のめり込むメンバーで構成されている工務店なので、それが恐いところでもありますが、なるほどと言われる事例を生むことで活路を開きたい、と考えています。

遠州・地域材研究会			
村松 篤	坂田卓也	眞瀬悦邦	
新野達治	森田勝明	小池一三(事務局)	
水崎隆司 (株式会社建築 代表)	小澤典良 (株式会社居 代表)	天野徳重 (南アマン 代表)	石野秀一 (株式会社フジイチ 代表)